

## 1 中区の統計データ ..... P82

- |         |          |           |
|---------|----------|-----------|
| ① 人口・世帯 | ② 多文化共生  | ③ こども     |
| ④ 高齢者   | ⑤ 障害のある人 | ⑥ 働く人・学ぶ人 |
| ⑦ 健康    | ⑧ 生活・住まい | ⑨ 地域活動    |

## 2 中区子育てニーズ調査 ..... P91

## 3 中区外国人意識調査 ..... P93

## 4 関連する計画 ..... P95

# 1 中区の統計データ

## 1 人口・世帯

約15万人が暮らす中区。

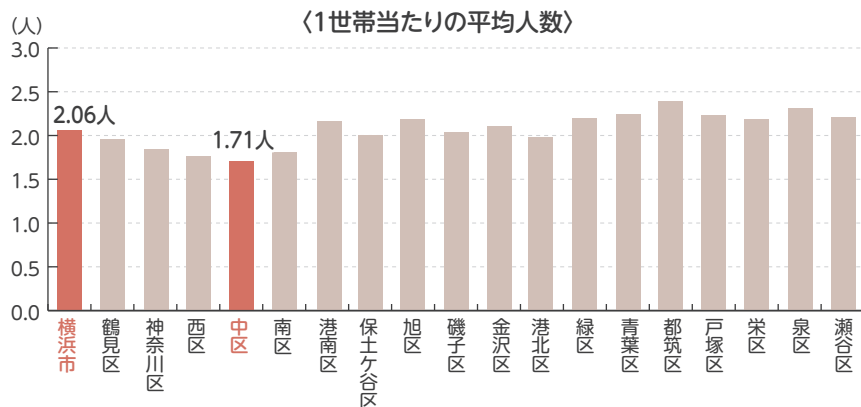
地域の特性を知ることが安心なまちづくりの第一歩です。



### 人口・世帯の特徴

2025年4月現在、中区の人口は15万3,433人で、18区中14位です。世帯数は8万9,792世帯で、18区中12位です。

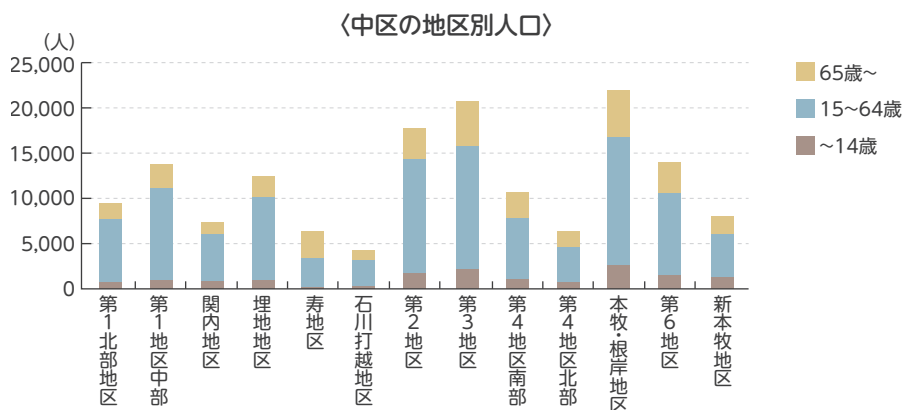
中区の1世帯あたりの平均人数は1.71人で、18区中最も少なく、一人暮らし世帯が多いことも特徴です。



出典：横浜市統計情報ポータル(2025年4月現在)

### 地区による人口と年齢分布の違い

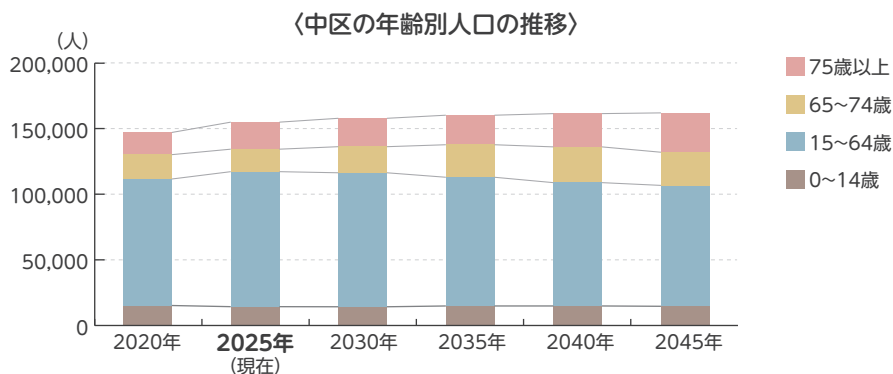
地区別に年代別の人口を見ると、地区によって割合の多い年代に違いがあることが分かります。



出典：中区高齢・障害支援課(2023年9月現在)

### 将来推計人口

中区の将来推計人口を見ると、2045年まで緩やかに増加しています。年代別に見ると、0～14歳の人口はほぼ横ばい、15～64歳は減少、65歳以上は増加が見込まれます。



出典：横浜市統計情報ポータル

## 2 多文化共生

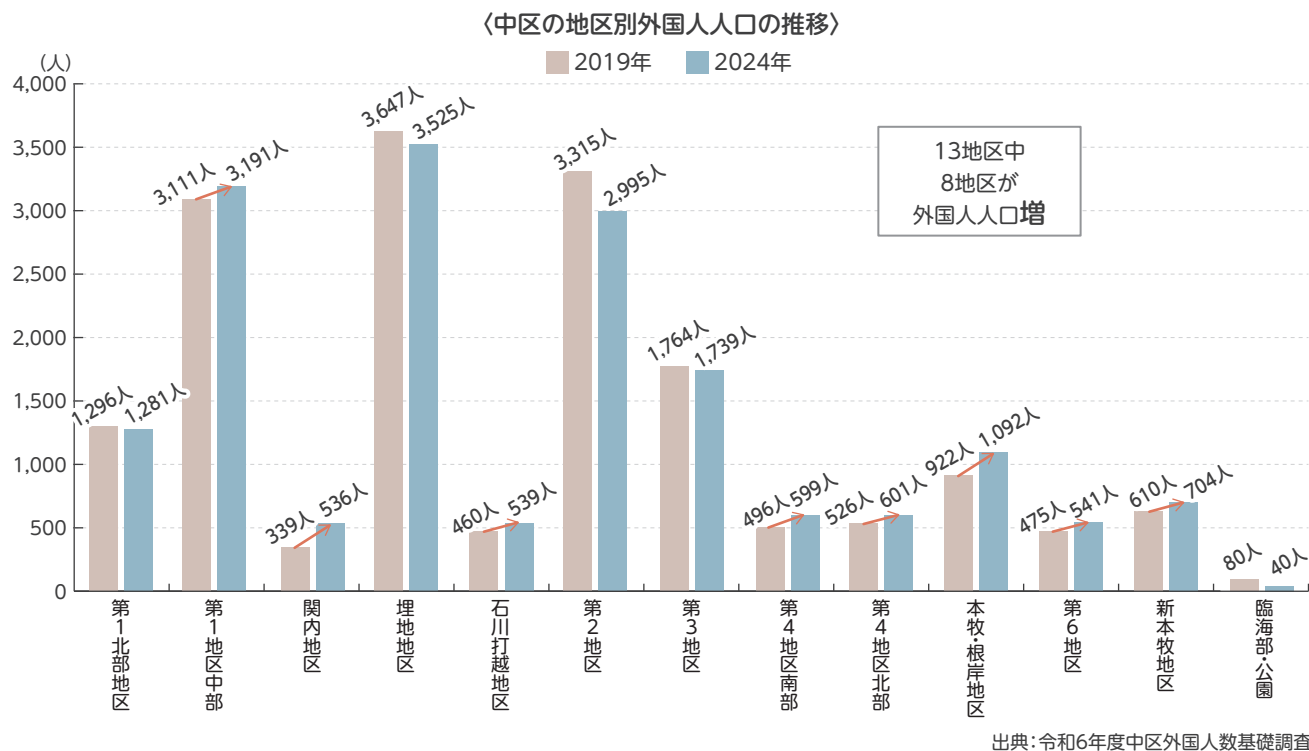
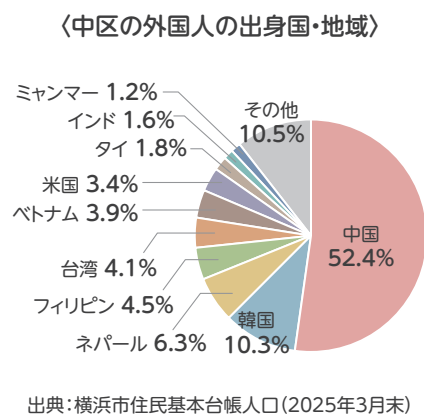
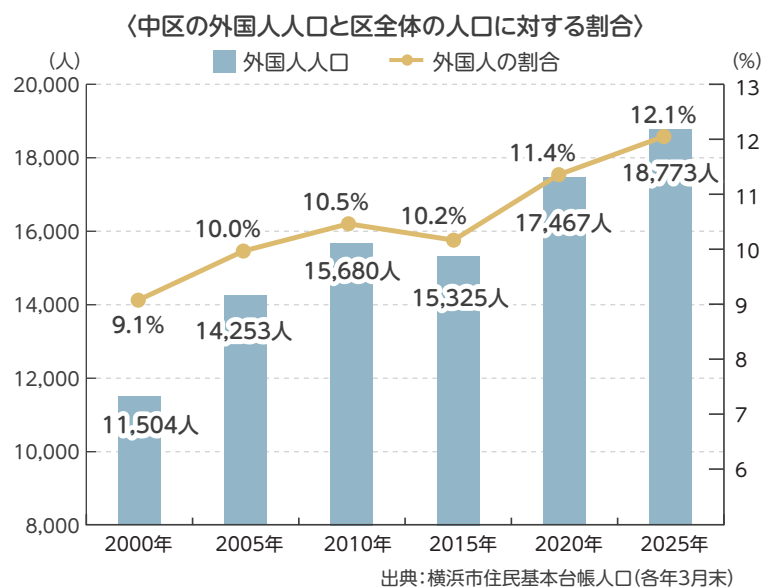
外国人人口の増加に伴い、地域での支えあいの  
仕組みづくりが求められています。



### 外国人住民の状況

2025年3月末現在、中区の外国人は1万8,773人、外国人割合は12.1%と増加傾向で、いずれも18区中1位です。出身国・地域では、中国が1位で約5割、次いで韓国、ネパールの順になっています。

また、地区別に5年間の人口推移を見ると、区内13地区中8地区で増加しています。



### 3 こども

少子化が進む中区。

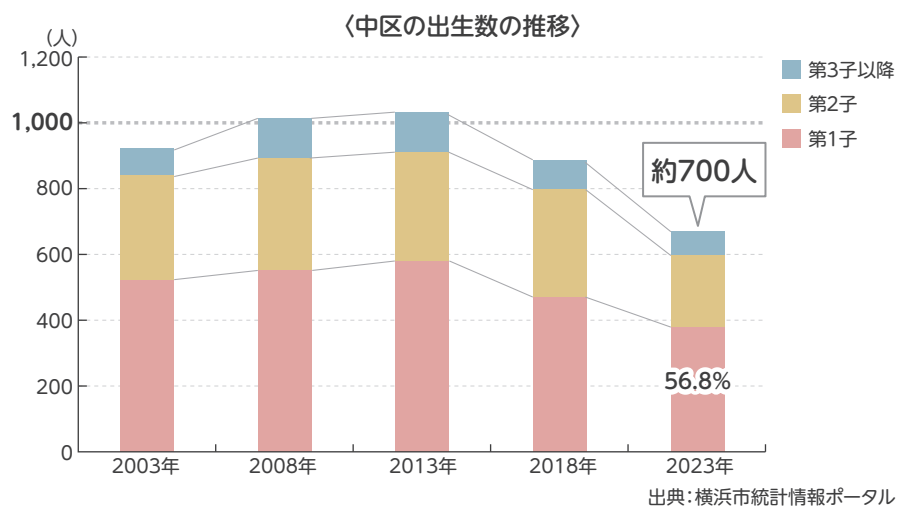
地域特性を踏まえた子育てしやすい環境づくりが求められています。



#### 出生数の状況

中区の出生数は、2013年以降、減少が続き、2023年には約700人になりました。

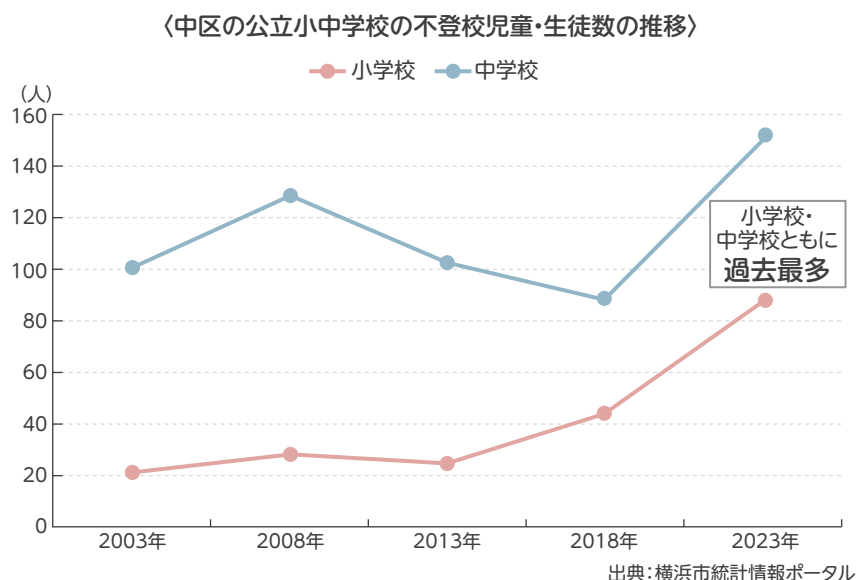
また、出生数に占める第1子の割合は56.8%で、18区中1位です。



#### 不登校の児童・生徒の状況

中区では、2018年以降、不登校児童・生徒数が増加しています。不登校のこどもは、小学生よりも中学生が多くなっています。

※心理的・情緒的・身体的・社会的要因により、年度中に30日以上欠席した児童生徒（病気や経済的理由によるものを除く）



## 4 高齢者

一人暮らし高齢者が多い中区。

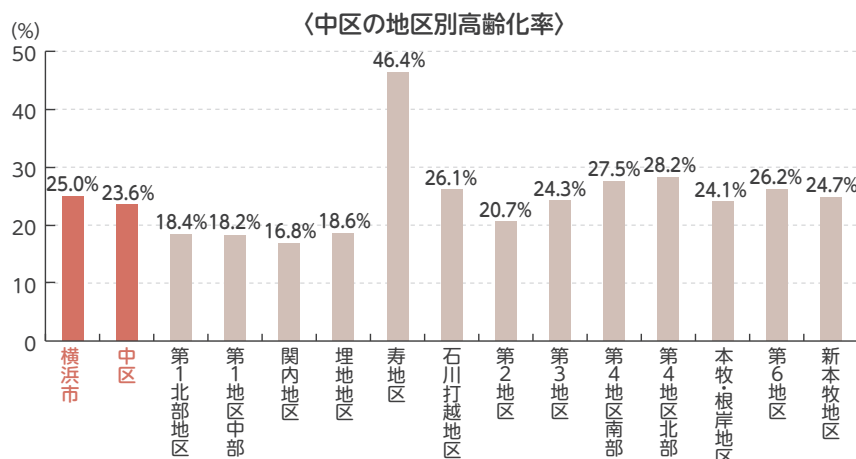
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、地域とのつながりが重要です。



### 高齢化率

2024年9月現在、中区の高齢化率は23.6%で、市全体の高齢化率25.0%より低く、18区中12位です。区内でも地区によって高齢化率にばらつきがあります。

※高齢化率  
総人口のうち65歳以上高齢者の割合

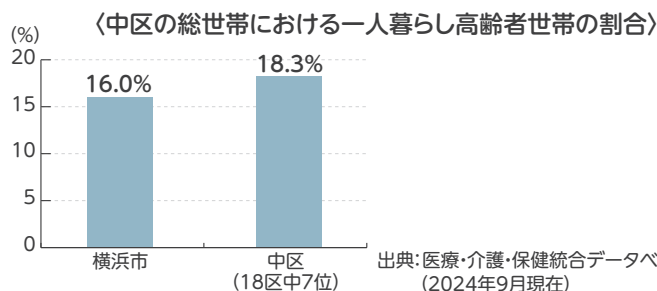


出典:医療・介護・保健統合データベース(2024年9月現在)

### 一人暮らし高齢者世帯の状況

2024年9月現在、中区の一人暮らし高齢者世帯の割合は18.3%で、市全体の16.0%より多く、18区中7位です。

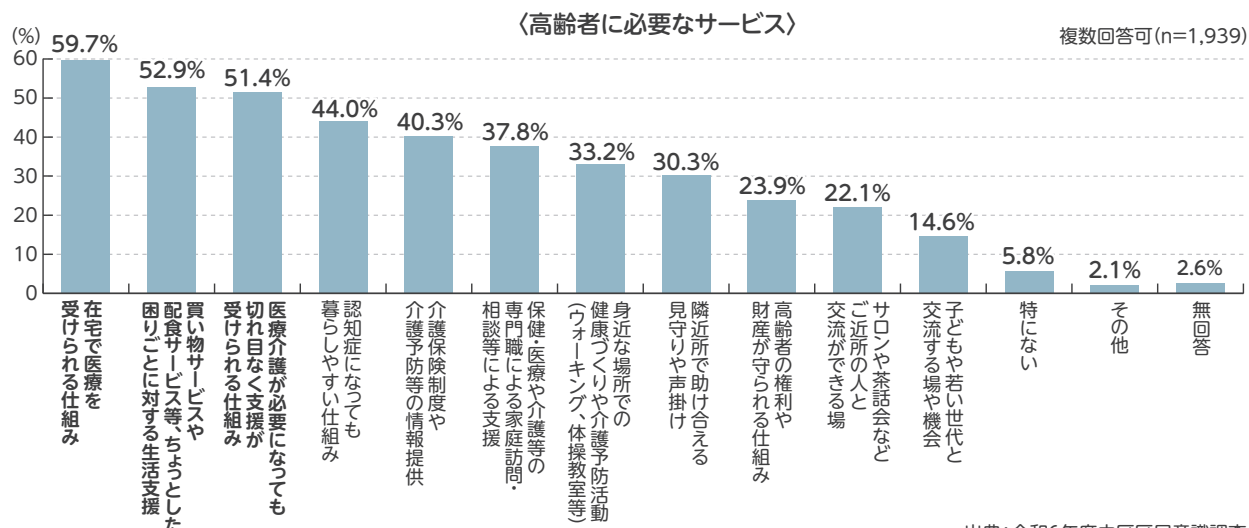
※一人暮らし高齢者世帯  
65歳以上の高齢者が一人で暮らす世帯



出典:医療・介護・保健統合データベース  
(2024年9月現在)

### 高齢者が安心して暮らすために

高齢者に必要なサービスでは、「日常生活の支援」や「健康管理・医療」などの回答が多くなっています。また、「相談できる場所」や「外出・交流の機会」など、人とのつながりを持てる環境も求められています。



出典:令和6年度中区区民意識調査

## 5 障害のある人

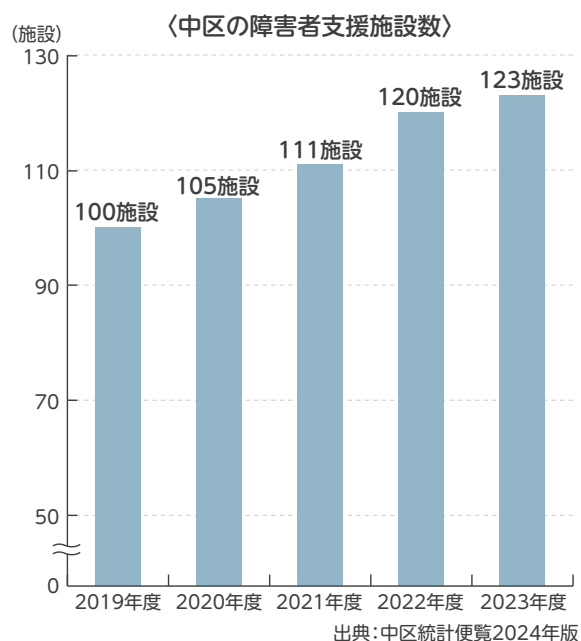
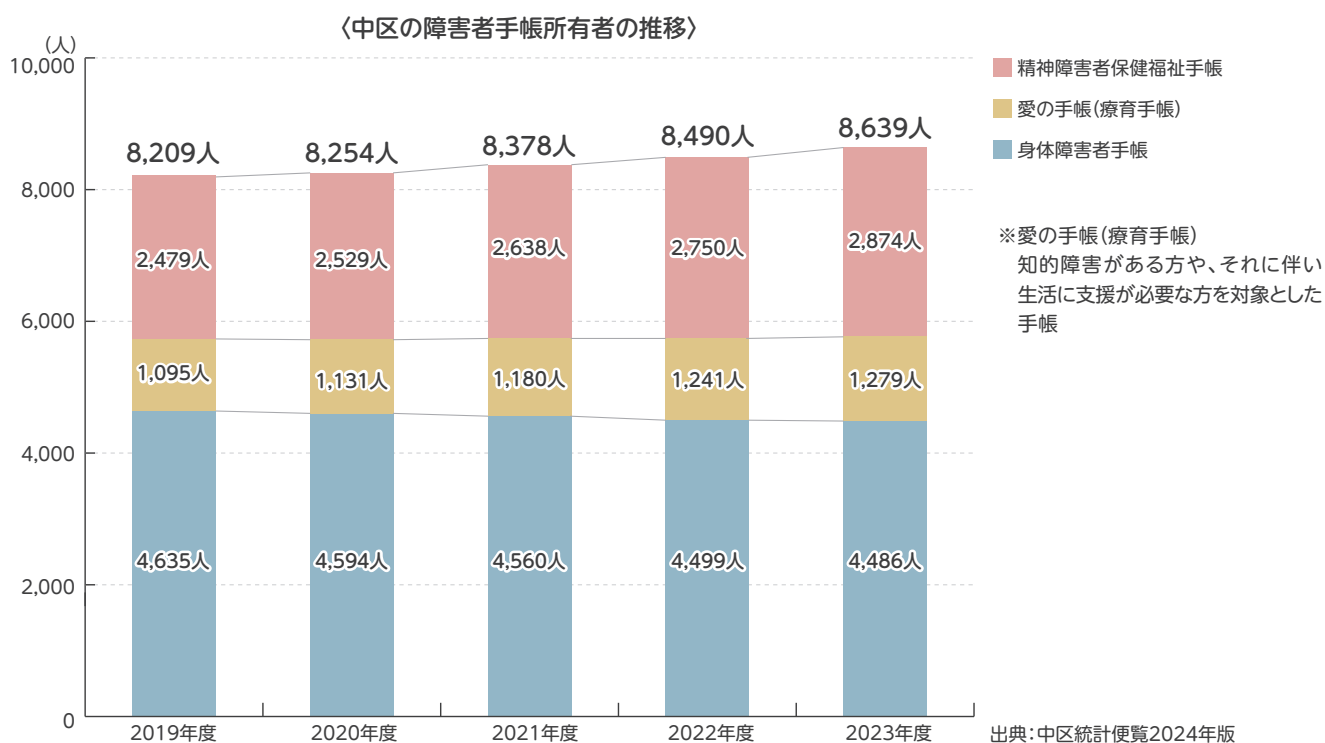
2023年度末現在、中区で障害者手帳を持つ人は8,639人で、人口あたりの所持率は18区中4位です。



### 障害者の状況

中区の身体障害者手帳の所有者は減少傾向にある一方で、愛の手帳(療育手帳)と精神障害者保健福祉手帳の所有者は増加傾向です。

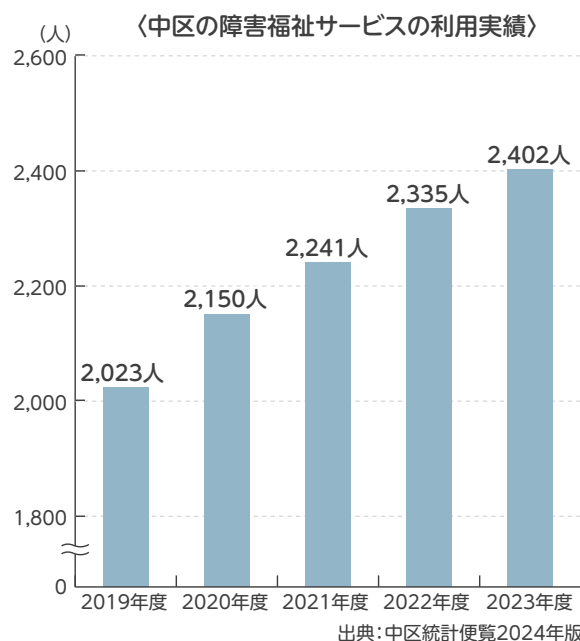
また、区内の障害者支援施設数や障害福祉サービスの利用実績は増加しています。



※障害者支援施設

障害のある方が日常生活や社会生活を安心して送れるよう支援する施設

(入所型の支援施設、通所型の生活介護事業所、就労支援事業所、グループホームなど)



※障害者福祉サービス

障害のある方が地域で安心して暮らし社会に参加できるよう提供される公的サービス

(介護、就労準備や訓練、日常生活の支援、相談支援、移動サポートや補装具の提供など)

## 6 働く人・学ぶ人

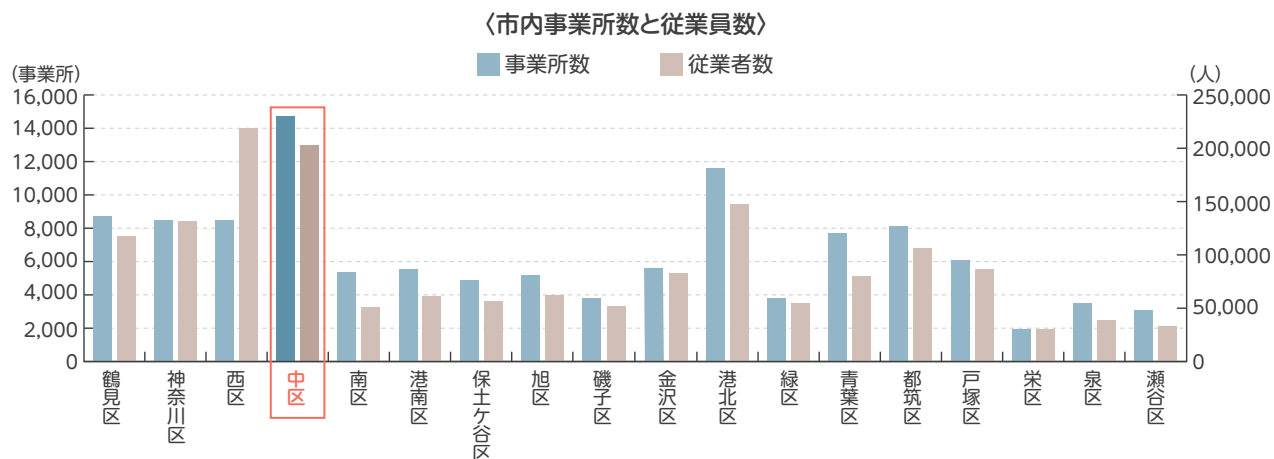
事業所数・昼間人口ともに市内トップクラスの中区。

多くの人が働き、訪れるまちとして、地域のにぎわいと支えあいの仕組みが求められています。



### 事業所数と従業員数

中区内に事業所は約1万5,000あり、18区中1位です。また、従業者数は20万人以上で、18区中2位となっています。さらに、中区には35の商店街<sup>※1</sup>と複数の大型商業施設<sup>※2</sup>があり、買い物や観光に訪れる多くの人でにぎわっています。



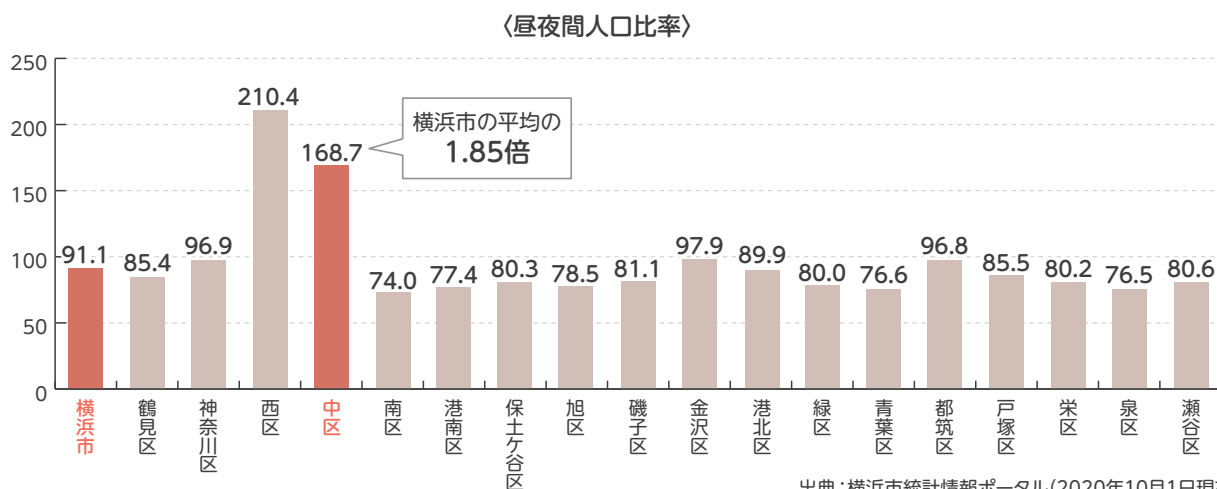
※1：横浜市商店街総連合会に加入している商店街

※2：横浜ワールドポーターズ、赤レンガ倉庫、横浜ハンマーヘッドなど

出典：令和3年経済センサス活動調査(2021年6月現在)

### 昼夜間人口比率

中区の昼夜間人口比率<sup>※</sup>は168.7で、市平均の約1.85倍あり、昼間人口の多さが特徴です。18区中2位です。



※昼夜間人口比率

夜間にその地域に住んでいる人の数に対して、昼間にいる人の数がどれくらいかを示したもの。  
(100を超えると昼間の方が人が多く、100に満たないと夜の方が人が多い)

出典：横浜市統計情報ポータル(2020年10月1日現在)

## 7 健康

運動への意識が高い中区。

自立した生活を長く続けるため、健康習慣づくりが重要です。



### 平均自立期間・平均寿命

中区の平均自立期間・平均寿命はいずれも、男女ともに市全体より短い状況です。

※自立期間

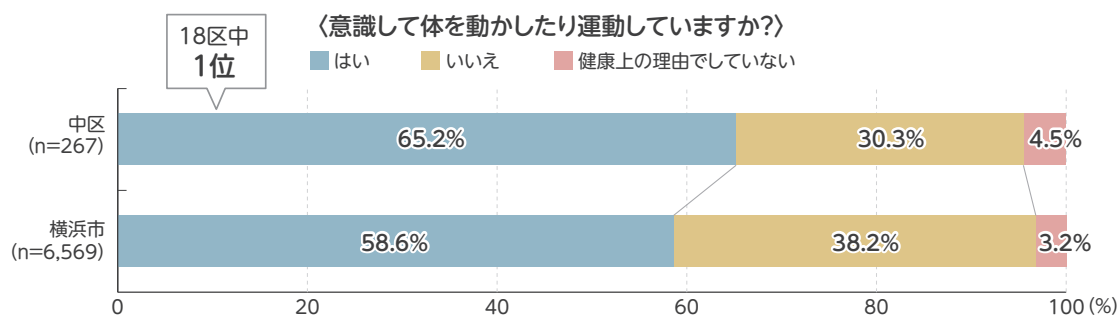
日常生活に介護を要しない期間

		横浜市	中区
平均自立期間	男性	79.9歳	75.0歳 (-4.9)
	女性	84.2歳	82.3歳 (-1.9)
平均寿命	男性	81.6歳	76.8歳 (-4.8)
	女性	87.7歳	85.9歳 (-1.8)

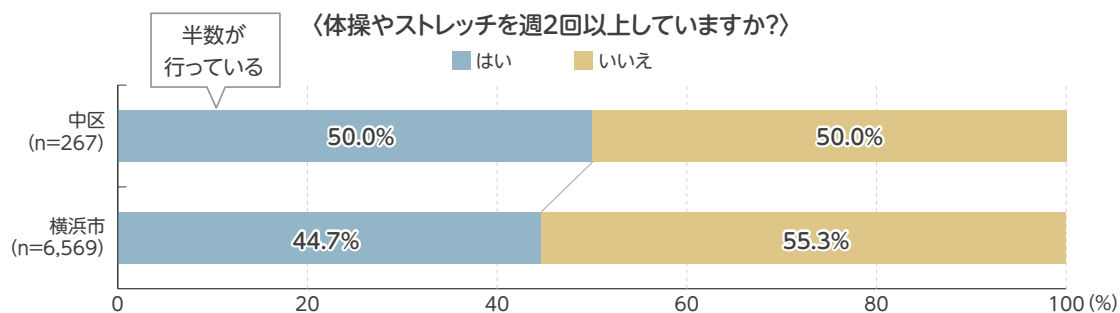
出典：健康福祉局健康推進課(2024年)

### 健康に対する意識

2023年の市民意識調査の「意識して体を動かしたり運動していますか」の質問に、中区では65.2%の人が「はい」と回答し、18区中1位となっています。また、「体操やストレッチを週2回以上していますか」の質問には半数の人が「はい」と回答し、市全体の44.7%より多い状況です。



出典：令和5年度健康に関する市民意識調査



出典：令和5年度健康に関する市民意識調査



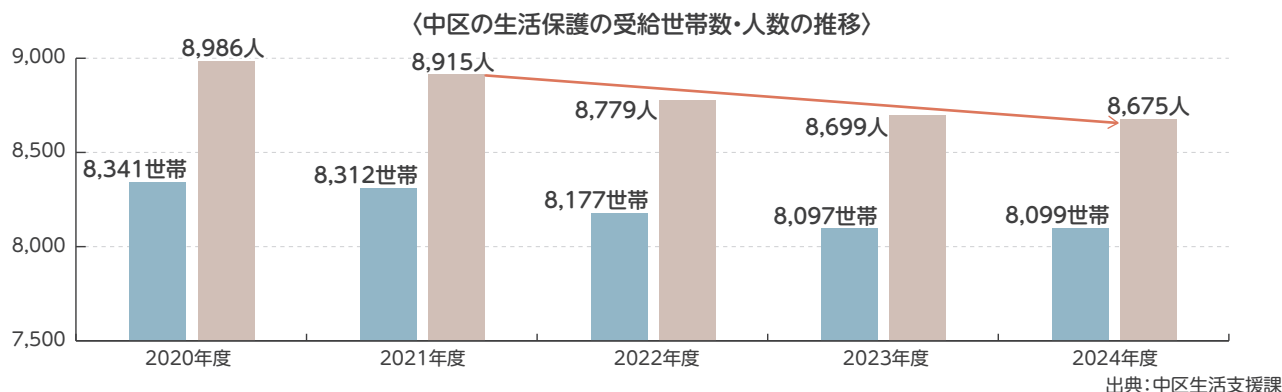
## 8 生活・住まい

今の暮らしを支え、明日への生活自立を後押ししています。



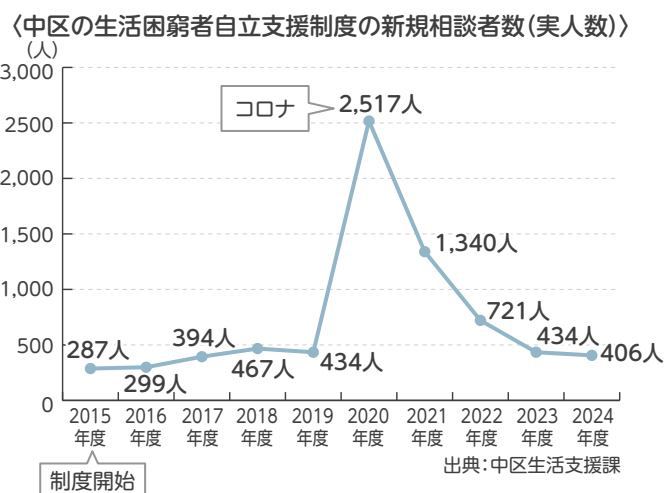
### 生活保護受給者の状況

中区の生活保護の受給世帯数は、2024年4月現在で8,099世帯、区全体の世帯数に占める割合は9.2%です。18区で最も高い割合ですが、年々減っています。



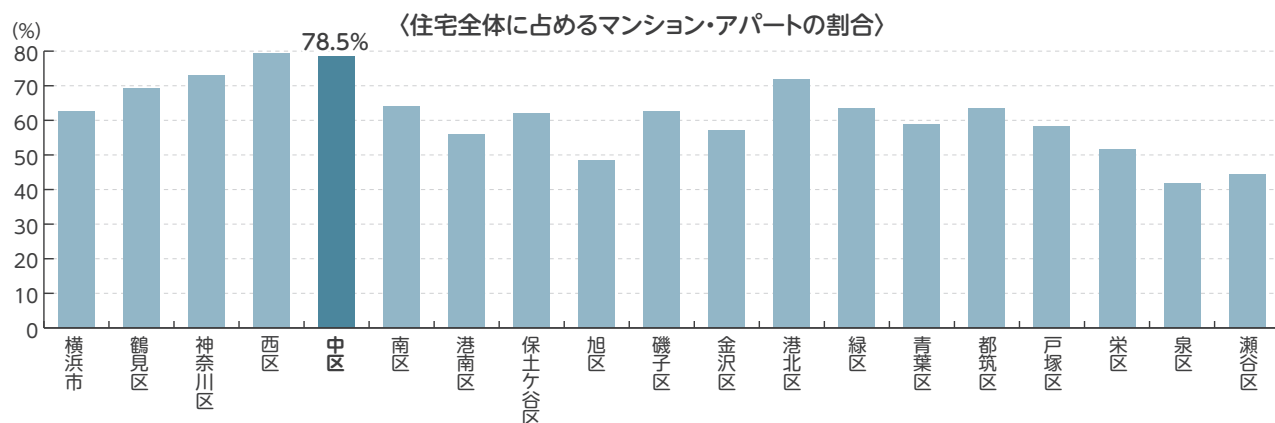
### 生活上の困りごと・相談の状況

生活困窮者自立支援制度では、2020年度にコロナの影響で相談件数が急増しました。2024年度にはコロナ前の水準に戻ったものの、いわゆる8050問題やヤングケアラーなど、複雑で多様な課題を抱える世帯の存在が見えてきました。中区は、7割以上の人がマンション・アパートなどに住んでおり、転出入も多く、地域のつながりが希薄になりがちです。



#### なぜ困窮状態に陥るのか？

さまざまな背景や要因



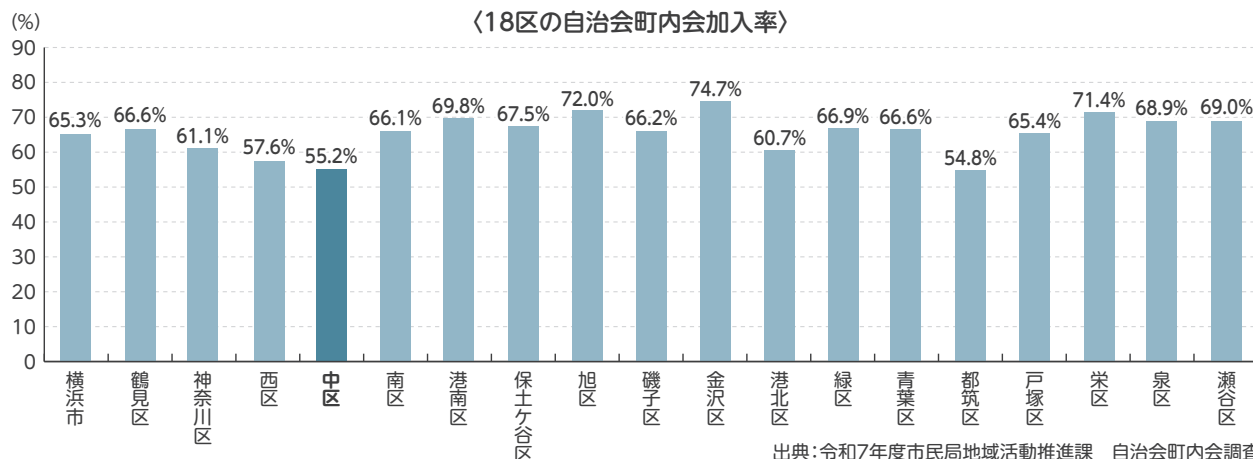
## 9 地域活動

中区では、「気軽に参加できる活動」への関心が高まっています。  
参加しやすい工夫がつながりの輪と地域の力を育てていきます。



### 自治会町内会加入率

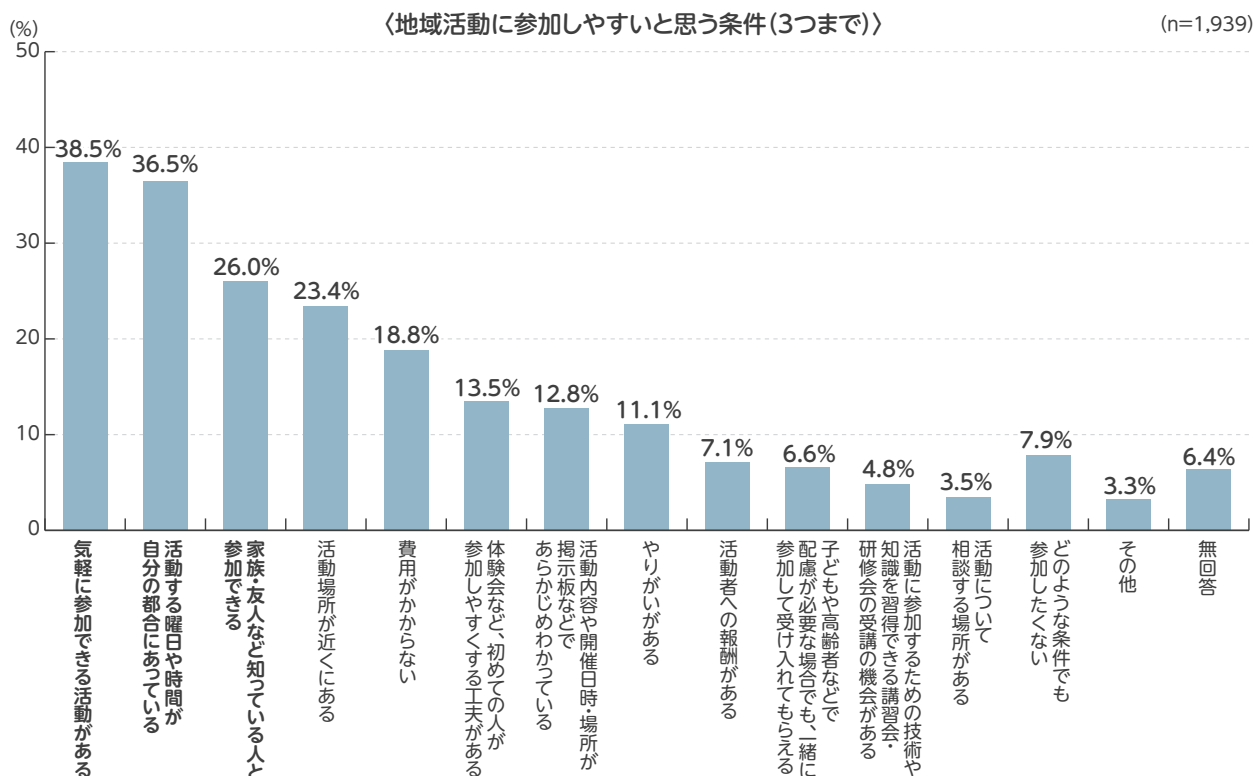
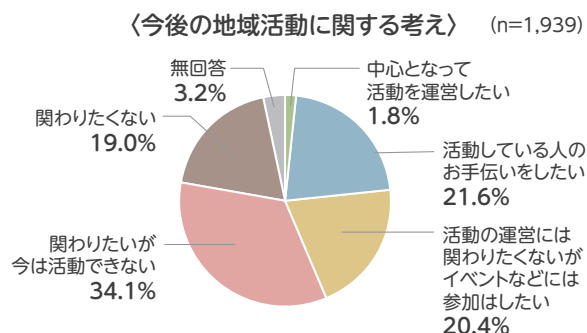
2025年度現在、中区の自治会加入率は55.2%で、18区中17位です。



### 地域活動をもっと身近に感じるために

地域活動に参加しやすい条件は、「気軽に参加できる」「曜日や時間が合う」「知っている人がいる」などの回答が多くなっています。

また、今後の地域活動に関する考えは、「中心となって活動を運営したい」から「関わりたくない」まで様々です。



## 2 中区子育てニーズ調査（令和6年度）

子育て世代のニーズを把握し、地域の子育て支援ネットワークの充実を図るため、乳幼児健診を受診した人や子育て支援施設を利用した人を対象に、アンケート調査を実施しました。

### 子育て世代と地域とのつながり

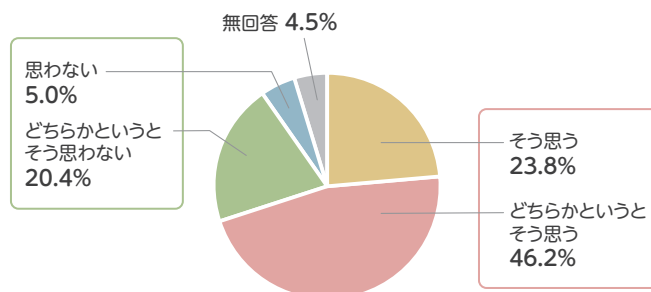
中区について、7割の人が「子育てしやすいまち」だと思っており、8割の人が「これからも住みたい」と思っていることが分かりました。一方、近所づきあいについては、「親しい人はいない」「あいさつ程度」と答えた人が6割と、地域の人とのつながりは強くないと思っている人が多いことも分かりました。

中区は子育て環境に恵まれ、定住意向が高い一方で、地域のつながりをこれから育んでいくまちだといえます。

#### 子育てのしやすさ

〈中区は子育てしやすいまちだと思いますか〉

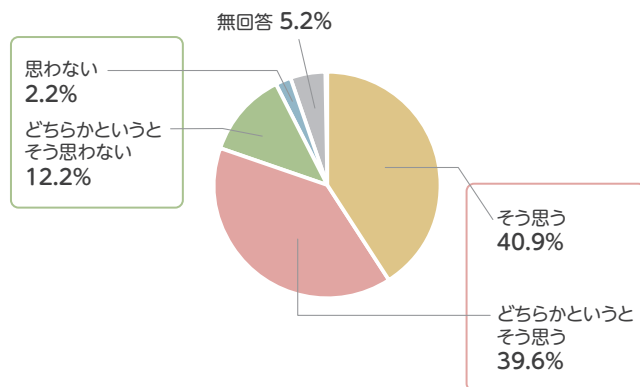
(n=558人)



#### 定住意向

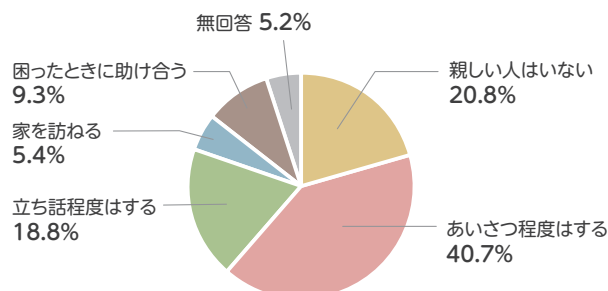
〈現在の住んでいる地域にこれからも住みたいと思いますか〉

(n=558人)



#### 近所づきあい

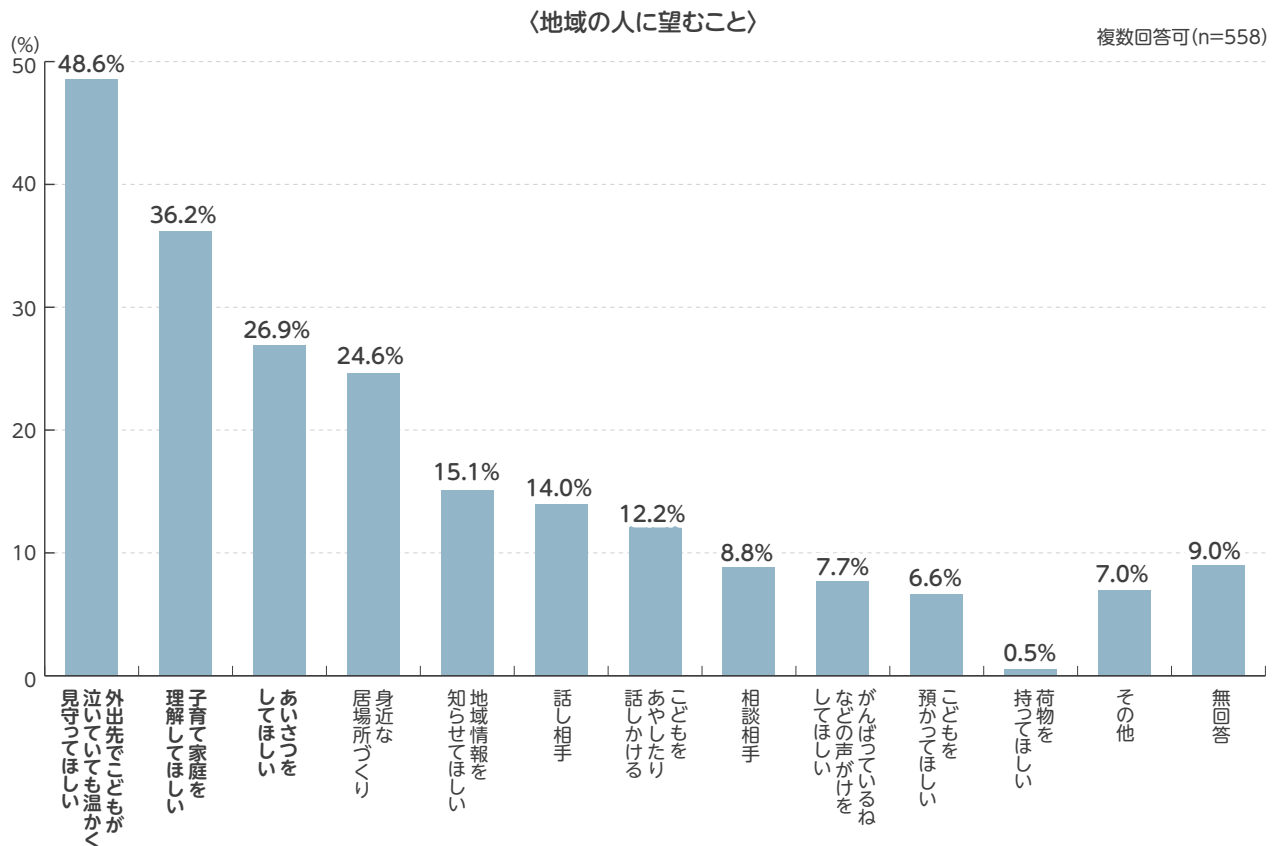
(n=558人)



## 子育て世代が地域に望むこと

地域の人に望むこととしては、「外出先で子どもが泣いていても温かく見守ってほしい」「子育て家庭を理解してほしい」「あいさつをしてほしい」といった、人との関わりを大切にしたいという回答が多くありました。

あいさつやちょっとした声かけなど、何気ないやりとりの中で安心感やつながりが生まれる、そんな地域の雰囲気づくりが求められています。



### 調査の実施概要

#### 子育てニーズ調査の実施概要

〈調査方法〉アンケート調査

〈対象〉乳幼児健診時の養育者、地域子育て支援拠点のんびりんこを利用する養育者、中区内の支援者会場を利用する養育者、親子のつどいの広場「シャーロックBABY本牧」を利用する養育者558人

〈調査項目〉プロフィール、子育ての心配ごと、子育て経験とイメージ、相談相手や協力者（孤独感）、お子さんとの外出、子育てについて（その他）、地域とのつながり



### 3 中区外国人意識調査(令和6年度)

外国人住民の生活実態を把握するため、インタビュー調査を実施しました。

#### 中区に住み始めたきっかけ、今後のこと

「横浜の歴史(英語版)」を読むと、中区についての内容が多く書かれていました。中区が外国人にやさしいまちだと知りました。

横浜が好きです。住みやすいと思いました。  
母国で紹介された日本語学校が中区にあったため、住み始めました。

住み始めたのは、職場が横浜だったからです！

家族の仕事がきっかけで日本に来ました。中区について調べてみて、外国人向けのまちだと思いました。観光客の受け入れにも慣れているし、住みやすそうだと思いました。

中区は住みやすいので、今後も住み続けたいです。母国の父や母も日本に来たことがあります、「ここに住みたい」と言っていました。

#### 地域の活動への参加／地域との関わり

野毛地区でゴミ拾いに参加しました。  
きっかけはポスターを見たことです。ご近所さんに聞いたら、ポスターの内容を教えてくださいました。

日本が大好きで日本人も優しいけれど、英語が100%話せる人しかコミュニケーションを取ろうとしません。  
お互いに辞書を持ちながら、いろいろと教えあうこともできると思います。

私は横浜港で、船員を支援するボランティア活動を行っています。  
中区に来てから、地域の皆さんに支えてもらいました。今度は、私自身が外国から来る人を迎え、サポートしていきたいです。

最初は日本のマナー(電車の中で携帯電話で話すのはダメ、リュックサックは体の前に持つなど)が分からなかったです。  
また、横浜はゴミの出し方が難しいです。転入時のガイダンスで教わりますが、実際に分別してみると、分かりづらくて困っています。

もっと積極的に町内会で活動したいです。  
お金のためでなく、地域のためにできることに、自分なりに取り組みたいです。

地域では消防団に参加しています。日本に長く住む予定なので、日本の文化に触れながら、多くの人に出会いたいです。

地域ケアプラザの花植え交流会に参加しています。こどもの母親としてではなく、一人の自分として過ごす時間を持てることが幸せです。

月に1回、清掃活動に参加しています。地域のお祭りにも参加したいです！

インタビューした外国人住民20人のうち、8人が地域活動に参加した経験がありました！



## 今後、工夫ができそうなこと

外国人に届く情報(花火大会や地域のイベントなど)が少ないと思います。  
中区は外国人を理解してくれる地域だと思いますが、もっと情報へのアクセスがしやすくなるとよいです。

日本人と外国人、お互いのサポートができるよう、関わりが増えるとういです。  
日本の人は親切で、とても気を使ってくれると感じています。

母国と日本の習慣がまったく違います。日本人とは、お互いにどう考えているのか、もう少し話ができるとよいです。  
外国人に対しては、同じ外国人として、暮らしているところの文化に慣れることや、日本のルール・マナーを知ることが必要だと伝えていきたいです。



中区に住む外国人の住民は、地域に支えられるだけの存在ではなく、すでに地域活動の担い手であるなど、貴重な地域の人材となっていることが分かりました。国籍や世代にかかわらず、地域の中で活躍できる場があれば、まち全体の多文化共生がさらに進み、まちの魅力もアップしていきます。

例えば、母語を生かして地域イベントのチラシを翻訳するといったことをきっかけに、同じ地域に住む人が「顔の見える関係」を一つひとつ丁寧につくっていくことが大切です。

### 調査の実施概要

〈調査方法〉個別インタビュー

〈対 象〉中区内に居住する外国人または外国にルーツを持つ人20人(中国、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、ネパール、米国、タイ、インド、英国)

〈調査項目〉プロフィール、ライフスタイル(世帯構成、日本語学習、コミュニティなど)、中区に住んでいる理由、住みやすさ、行政サービスの利用状況など



## 4 関連する計画

中区では福祉保健をはじめ、様々な分野で計画を策定し、お互いに連動しながら推進しています。

### 第5期中なかいいネ！と関連する中区の分野別計画

#### ◆ 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた中区アクションプラン(令和4～8年度)

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、必要な包括的支援・サービス提供体制の構築に向けた取組を整理した計画です。

この計画における3つの要素のうち、「元気な暮らし」と「つながる・支え合う」は、中なかいいネ！の「えん結び」と「元気いっぱい」と重なっています。



#### ◆ 横浜市都市計画マスタープラン・中区プラン(令和2～22年度)

おおむね20年後の中区の将来像を描くとともに、その将来像を実現するための「まちづくり」の方針を定めた計画です。計画における生活環境に関する方針「誰もが安心して暮らせるまちづくり」については、中なかいいネ！の取組に基づいて進めていきます。



#### ◆ 第3期中区多文化共生推進アクションプラン(令和8～12年度)

国籍やルーツによらず、誰もが安心していきいきと暮らせるまちを目指し、多文化共生施策推進の方針を定めた計画です。外国人も一緒に地域活動を進めていきます。



### 参考 市域での地域福祉保健計画と分野別計画の関係

